

検査のパレット

2020年4月より広島記念病院では新たに排便機能外来が開設されました。前回に引き続き、排便機能外来で行っている**直腸肛門内圧検査**についてお話しします。

直腸肛門内圧検査では、患者様に力を入れる等の協力をしていただきながら数種類の内圧測定を行っていきます。今回は最大静止圧や随意収縮圧の測定についてお話ししましたが、今回は他の項目を紹介します。

●怒責（いきみ）

便を出すようにいきんだ時の直腸内圧や肛門内圧を調べることで、腹圧をかけることができるか、便排出のために肛門を緩めることができるかを調べる検査です。便排出障害の患者様には、全身で力んでいるのに腹圧を上げられない人や、いきんだ時に肛門を強く締めてしまって便を出せなくなっている人もいます。

●直腸感覚検査

直腸の感覚を調べる検査です。この検査では直腸内にバルーンを入れて、少しずつ空気を入れて膨らませながら、便意を感じる量（便意発現量）を測定します。さらにバルーンを膨らませていき、便意を我慢できなくなる量（最大耐容量）を測定します。直腸の感覚が鈍っていたり、過敏になっていないかを調べることができます。

●直腸肛門反射検査

直腸肛門反射とは、便が直腸に到達して直腸が伸展されると、反射的に肛門周りの筋肉が緩んで排泄の準備状態になる仕組みのことをいいます。この検査では直腸内にバルーンを入れて膨らませた時の肛門内圧の変化をみます。この反射が鈍ると便意があっても便を出せない症状が出現します。

以上のような直腸肛門内圧測定を行い、**便失禁・便秘**の原因を調べ、その人に合わせた治療（服薬・食事生活指導・排便指導・運動訓練 等）を行っていきます。



質問等ございましたら、お気軽におたずねください。

今後とも検査室をどうぞよろしくお願いいたします。

文責 鈴木 美月

監修 永田 拓生